

共立機械製作所

「加工のデパート」企業が考案

改良重ねフェイスシールド開発

共立機械製作所(相模原市中央区田名、☎042-785-2861)は、既存設備・技術を活用し、使い勝手を追求した「2WAYフェイスシールド」を製品化した。同社は「加工のデパート」と呼べるほど、幅広い素材の加工に対応する企業。金属だけでなく、樹脂やセラミックス、チタンも手掛ける。5月の大型連休前に新型コロナウイルスが日本中で広がったことを受け、フェイスシールドの開発に急ぎ着手。16回の改良を重ねて完成させた。

「当社に何かできることはないかと社員と話しているうちに、フェイスシールドを開発することになりました」と村上泰弘社長。フェイスシールドの素材はPETフィルムのため、得意の樹脂加工の技術・設備が使えた。改良に改良を繰り返し、現在の「2WAYフェイスシールド」になった。

同製品はメガネをしていても付けられ、くもり止め仕様になっている。最大の特徴は、ゴムひもでマスクのように着けられ、1枚で「あご当て」か「額当て」の2通りで装着できる点だ。

ヘルメットを着けていたり、髪型が崩れるのを気にしたりする人は「あご当て」、マスクと併用したい場合は一般的なフェイスシールドと同様「額当て」として固定できる。

耳にかけるゴムひもは、伸ばしても強度が変わらない特殊なもので「長時間着けても耳が痛くなりません」と(同)としている。



はっぴわーく

本格派トマトソースを共同開発

障がい者支援施設がタッグ



障がい者の自立を支援する2つの事業所がタッグを組み、新商品開発にこぎつけた。就労継続支援B型事業所、はっぴわーく(川崎市多摩区登戸、☎044-299-6367)は、同じ市内の生活介護事業所、はぐるま工房とトマトソースを共同開発した。知的障がい者が市内で育てたトマト「シシリアンルーージュ」をふんだんに使用し、フレンチシェフが監修した本格派だ。

はぐるま工房がトマトを栽培。はっぴわーくがレシピ開発から製造までを手掛けた。シシリアンルーージュは、抗酸化作用があるリコピンや、うま味成分であるグルタミン酸が豊富な品種。加熱調理により、うま味が増すのが特徴だ。

はっぴわーくでは、こうした特徴を生かした商品にしよう、プロ監修のもとで何十回もの試作を繰り返した。現在は「おいしさの基準」として一定の糖度を設定し、基準を満たしているかを数値管理

しながら生産している。

今回は100本の数量限定販売。260グラム入り1000円(税込)。味の比較もしてもらいたいと「桃太郎トマト」のソースも500円(同)で同時販売する。

はっぴわーくの田中敦子所長代理は「甘いジャムを食べない人もいます。その点、トマトソースは料理でも活用の幅が広く、いろいろな人に食べてもらえる可能性があります」と話しており、販路開拓に力を入れていきたいという。



すぐに役立つ葬儀マナー⑩
～ご葬儀参列について～

社長さんが知っておきたい
冠婚葬祭のマナー

社人になると、お付き合いの中で急なお知らせにより、ご葬儀へ参列する場面があります。ところが、いざ参列するとなった時、何となく知っているけれど、正しいかどうか不安になることはありませんか? そこで、ご葬儀への参列について、よくある質問と合わせてご紹介いたします。

Q. お葬儀に参列する時、何時頃会場に行けばよいですか?

A. 一般的には、式時間の30分前から受け付けが始まる場合が多いので、式時間の15～30分前に到着し、開式前に受け付けを済ませておくのが望ましいです。

Q. お香典を辞退されている葬儀に参列するのですが、本当に何も持たずに行ってもよいのでしょうか?

A. 故人や遺族との関係性にかかわらず、ご遺族がお香典を辞退された場合、意志を尊重し、お香典を用意する必要はありません。

また、この場合、お香典を無理にお渡しすることは、

ご遺族の負担になりますので、控えた方がよろしいでしょう。お香典をお渡しする以外の方法で弔意をお伝えしましょう。

例えば、ご葬儀で故人にお供えするご供花やお供物、弔電などのいずれかを送ることも、弔意を伝える方法としてよいでしょう。

もし、お香典のほかにも、ご供花やお供物、弔電などもご辞退されている場合、こちらも無理に送ることは控えましょう。

この場合は、何も用意せず、心を込めてお見送りが、ご遺族の希望とお察しいたしましょう。

ご辞退するのには、それなりの考えがあります。先方のご意向を理解して差し上げるのも、ご遺族に対しての弔意の伝え方かもしれません。

最後に、新型コロナウイルス感染防止に向け、葬儀も新しい生活様式に対応しております。遺族親族をはじめ、ご参列のみなさまのご協力のもと、お見送りの形もさまざまですが、今は無理をせずに家族や親しい人とお別れのあり方をあらためて考える機会となっているように感じます。今回も参考にさせていただければ幸いです。(fami友葬・清水ふじ代)

わざあり

大学生と連携しプロモーション

商品普及で若者のアイデア活用



アグリベンチャー企業、わざあり(相模原市南区南台、☎042-815-0303)は、大学生のチームとタッグを組み、自社商品の普及を図っている。法政大学キャリアデザイン学部の授業「キャリア体験学習」を選択受講する学生5人とともに、同社が製造販売するフレーバーオリーブオイル「香力(かりき)」のプロモーションを進める。中高年の発想にはないアイデアや、若者のSNSの発信方法を採用することで、商品のファン獲得につなげる。

同大学のキャリアデザイン学部は、2年時に体験学習の授業が設定されている。受け入れ側となる企業を学生が選び、経営者と話し合い、1年間取り組むテーマを決める。学生と企業との「会議」は週1回ほど。石井正一社長は「本格的な議論になっています」と語る。

今回、両者で取り組むのは、商品のプロモーション。同社の「香力」は味の素が開発した辛い唐辛子を配合したオリーブオイル。唐辛子のカプシノイドによる燃焼効果が特徴だ。ただ、商品を普及しようにも、同社は実質的に石井社長が一人

で運営しているため、アイデアにも限界がある。

そこで以前から産学連携の経験がある法政大学の学生を受け入れた。大学の授業なので企業にとって費用負担が発生しない利点もあるという。

学生たちは現在までに、「香力」を使ったオリジナルレシピを次々と考案。「香力鯛茶漬け」や「香力ピビンバ」「香力ズッキーニピザ」「香力餃子チップス」「香力カプレーゼ」など、斬新なメニューを生んだ。

10月には学生たちが自分たちでデザインしたレシピ集を制作し発行。同社はこれを販促ツールとして活用していく。石井社長は「若いので、私たちにないような考えが聞けます。これから新商品を開発する企業にとっても、大学生の知恵を借りるのも有効だと思います」と話している。

PLANT-A

小さな治具の設計、製造をカバー

「多能工工場」を実現

PLANT-A(綾瀬市上土棚中、☎080-5543-9539)は、澤幡幸光社長が何でもこなす「多能工工場」を実現する。自動車部品業界を中心に、治具の設計や製造を手掛けている。国内では少ないとされる環境試験治具も製造する。現在、業界を問わず一品物の小さな治具の製作も受け付けている。



澤幡社長は、幼少時代から町工場を経営する父の背中を見続け、2019年1月に念願の独立を果たした。県内では製造業の起業は珍しく貴重な存在でもある。20余年、他社の生産現場を経験。治具や装置の設計だけでなく、精密機械加工や溶

接など、何でもやってきたという。

現在、同社が製作する治具は、自動車部品が外部環境で変性してしまわないか、実際の使用条件を想定してシミュレーションする環境試験に使用されている。

澤幡社長は「(コロナ禍の)厳しい時期ですが、多能工なので小回りが利きます。自分で設計も加工もできる一品物の小さな治具を新規で提案、営業していきます」と語っている。



ミヤコバス

鈴木社長「最も安全な乗り物」

全バスでコロナ対策

ミヤコバス(相模原市中央区上溝、☎042-713-1138)は、保有するバス計25台に、新型コロナウイルス感染症対策を施した。車内の各座席にアクリル製の飛散防止シートを設置したほか、一部車両の内装部分には光触媒コーティングを塗布した。

同社は観光バスと企業送迎バス事業を柱とする。ただ、観光バスの利用者は、他の事業者と同様に新型コロナウイルスの影響が直撃、減少傾向にある。そこで、「バス=密閉空間」とのイメージを払しょくするために、安全対策を積極的にアピールしていく。

「運行が終わるたびにアルコール消毒を繰り返しています。一部車両では次亜塩素酸水も噴霧しています。とにかく、安心して利用してもらいたい、やれることをやっています」と鈴木誠社長。利用者には「密にならないよう、座席の間隔を空けて着席することも推奨している。

鈴木社長は「不特定多数の人がひっきりなしに乗ってくる電車よりも、バスの方がより安全だと思います。コロナ対策という意味では、バスは既存の交



通手段の中で最も安全な乗り物の一つだと考えています。安心して使っていただきたいです」と説明。企業やイベント送迎でバスの積極利用を呼び掛けている。